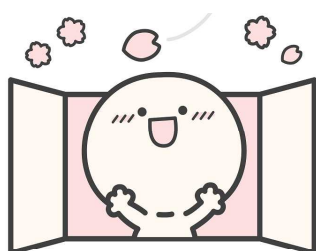


# さくら



令和7年4月14日(月)

## 散るという飛翔のかたち



先日、知人から次の短歌を教えてくださいました。  
歌人の 俵 万智(たはら まち)さんの歌集『サラダ記念日』  
(1987)にある歌です。

散るという飛翔のかたち花びらは  
ふと微笑んで枝を離れる

この歌は桜の花が散るようすを表したものです。「散る」という言葉からは、入試で不合格になったときなどに「桜散る」と表現するように、ネガティブなイメージがあります。しかし、彼女は「散る」ことを「飛翔」というポジティブなものとしてとらえています。飛翔とは羽ばたいて飛んでいくことであり、巣立ちをイメージさせます。さらには、「ふと微笑んで」と擬人的に表現することで、「散る」という言葉から連想される悲しさを打ち消し、「枝を離れる」という表現では独り立ちをイメージさせています。

この歌が詠まれた時の、彼女の背景（思いや身の回りの出来事など）は分かりませんが、鑑賞する者が元気になる歌だと思いました。私は国語が専門ではないので、この解釈が正しいかどうかは分かりません。しかし、人それぞれにさまざまな鑑賞の仕方、意味のとらえ方があっていいのではないのでしょうか。皆さんはどうとらえますか。興味を持った人は、国語の先生の見解も聞いてみてください。

始業式から1週間が経ちました。1年生の皆さんは、慣れない中学校生活のスタートで少し疲れたかもしれません。しかし、徐々に慣れてくるので心配しないでください。2、3年生は、「頑張るぞ」という思いとともに、良い意味での緊張感があつたのではないのでしょうか。

本日からは新年度の第2週目。どの学年も、堀江中学校の5つの取組を大切にして頑張っていきましょう。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

